

# 平成26年 登熟期仕上げの水管理チェックポイント

- ・落水後に土壌が過乾燥になると、腹白粒・乳白粒が増加し、収量が低下します。落水後も走り水を行い、土壌水分を維持しましょう。
- ・登熟初中期に、昼夜とも高温条件が続く場合は、かんがい水の掛け流しを行い、稲体周辺の気温を下げ、玄米品質を低下させないようにしましょう。

## “仕上げの水管理” 三箇条

- ① 出穂が始まったら浅水管理  
(または間断かんがい/走り水)
- ② 地耐力確保の地固めが原則  
(土壌表面にわずかに足跡が付く固さ)
- ③ 落水は穂かがみ期 (出穂後25日目以降)

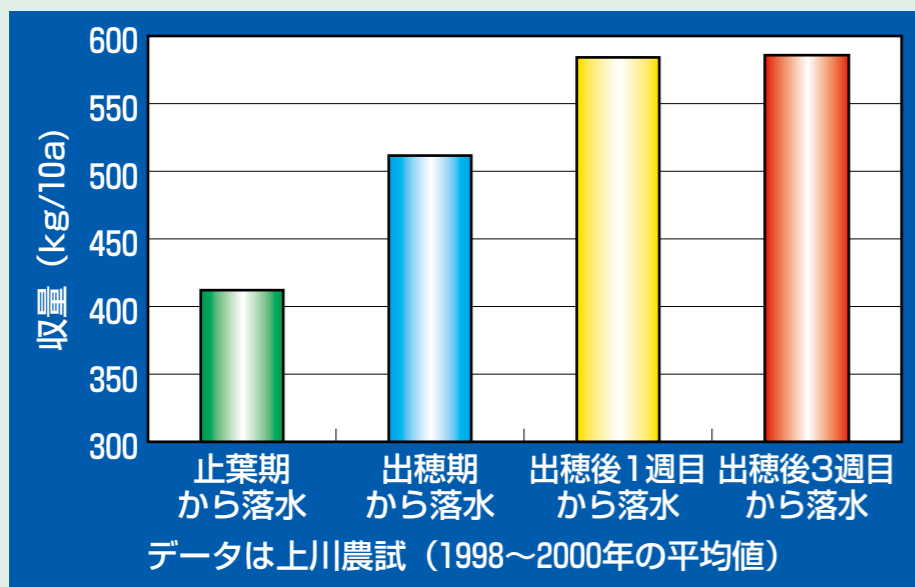
表 登熟期後半の水田土壌水分と土壌表面状態 (平成13年、中央農試・上川農試)

| 落水後登熟期間<br>の土壌水分 | 水田土壌表面等の状態             | 収量<br>への影響 | 産米品質<br>への影響 |
|------------------|------------------------|------------|--------------|
| pF2.5以上          | 作土に深い亀裂が生成、水稻根の切断が観察   | ×          | ×            |
| pF2.4程度          | 作土に幅1cmくらいの亀裂多数、足跡つかない | ▲          | ×            |
| pF2.1~2.3        | 表面に小亀裂生成、わずかに足跡がつく     | ◎          | ◎            |
| pF2.1以下          | 表面のみ乾燥、亀裂微、明瞭に足跡が残る    | -          | -            |

(注)◎: 好適、▲: 境界領域、×: 不適、-: 収穫機械走行に悪影響

## 水田表面の大亀裂・干ばつ害の防止

- ◆水田土壌の乾き過ぎによる干ばつ害や、土壌表面の大亀裂は収量低下や腹白粒・乳白粒増加の原因になります。
- ◆適宜、走り水をして水田表面の大亀裂の発生や干ばつ害を防ぎましょう。



落水時期と収量の関係



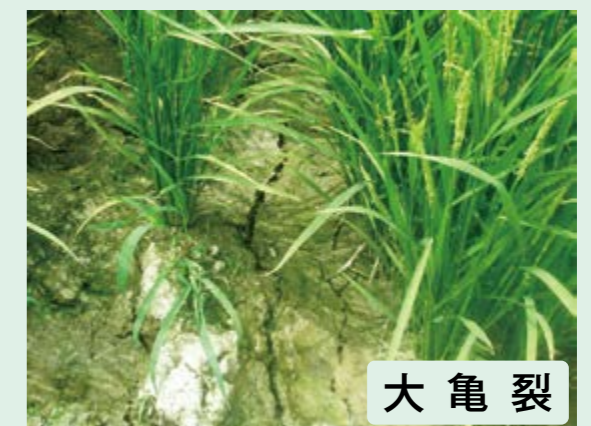
腹白粒・乳白粒



溝切りと走り水



干ばつ害



大亀裂